

長野県上田高等学校生徒会 [長野県推薦] (長野県上田市)<http://www.nagano-c.ed.jp/ueda-hs/>

代表者名：落合 光平 団体構成員数：1,069名

上田高等学校生徒会では、東日本大震災が発生した翌年から、同校の文化祭（松尾祭）の企画の一つとして「松尾菜for福島」と題し、福島県の農産物の販売を行っています。

東日本大震災の起きた後、当時2年生の生徒数名が自発的に福島県の農家を訪れ、安全であるにも関わらず原発事故による風評被害で野菜が売れない現状を目の当たりにしたことを契機に、翌年、震災の記憶が被災地以外では遠く中で、苦しむ農家のために、募金などの支援ではなく、フェイス トゥ フェイスの支援の方法を模索し、文化祭で福島県産農産物の販売を企画しました。生徒たちが自発的に、全ての農作物について放射線量の検査結果を集め、農家の方々と密に連携して実施案を練り、開催するに至りました。初回は開場と同時に多くの人々が訪れ、野菜などの販売品はすぐに完売しました。「松尾菜for福島」は、学校が主導したものではなく、企画から運営まで全てにおいて生徒が主導して実施したもので、生徒たちが支援団体や農家の方々など様々な団体に意見を仰ぎ、課題を解決していきました。このような活動は初の試みであったため、長野県内のマスコミにも大きく取り上げられました。平成29年で6回目の開催となりました。



校門の様子



松尾祭の様子



松尾菜for福島

■選考委員のコメント

震災後の風評被害に問題意識を持って自発的に始まった上田高等学校生徒会の農産物販売は、今に至ってもその意志と意味を引き継ぎながら、震災被害の現地である福島県と長野県上田市をつなぐ活動として継続しています。また、農家と緊密な連絡を取って活動するなど、自主的な活動や農家を招いて震災被害者の声を直接聞きながら被災地支援を継続している点などが評価できます。

[受賞者からの一言]

6年前に本校生徒会が、風評被害に苦しんでいる福島の野菜農家を支援したいと始めた「松尾菜for福島」を今回このように表彰していただき、本当にありがとうございました。

毎年先輩から引き継いできた活動が、今回の表彰を通して注目されることになり、より一層努力をしようという決意を新たにしました。

震災から7年経った今でも被災地の困難な状況は続いており、未だに苦労されている方が多くいらっしゃいますが、これからも上田高校生徒会はこの活動を続けていくことで、少しでも力になりたいと考えています。



表彰状の授与